

令和3年度国立教育政策研究所
教育課程研究指定事業研究協議会（高等学校 国語）

「高等学校『国語総合』－文学作品を主体的，対話的に学ぶ
試み－「富士」を手掛かりに」

愛知教育大学附属高等学校

学校概要

- ・ 昭和48年開校
- ・ 全日制普通科 14クラス
 - 1年生 30名 × 4クラス
 - 2・3年生 40名 × 5クラス
- ・ 全校生徒 509名 (R3.5.1現在)
- ・ 進路状況 (令和2年度卒業生 進学187名 就職2名)

教育目標

- ▶ あたたかい人間になろう
- ▶ たくましい人間になろう
- ▶ おおらかな人間になろう

研究主題

文学的教材を主体的，対話的に学ぶことによって育成する言語能力を身に付け，作品の解釈を深めるとともに，我が国の言語文化への興味・関心を広げるための学習・指導方法及び学習評価の在り方に関する研究

目標

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を高め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。（国語総合 2 目標）

→「的確に理解」と「言語文化に関する関心を高め」ることに重点を置いた指導。

生徒の実態調査（学習状況調査）

▶ 学習「意識」は低くない。

小説は登場人物の心理等を表現に即して読む。

78.3%（参考値 65.2）

小説は場面・情景や象徴表現に注意して読む。

80.0%（参考値 63.6）

古文・漢文の学習内容：宿題と予習や復習など

30.8%（参考値 26.0）

生徒の実態調査（基礎学力調査）

▶ 「課題」と判定された小問群

1 現代文知識「小説読解に必要な**知識**」

小説の心情表現として用いられるか女御の知識を問う。

2 現代文小説読解「**心情表現**の発見と理解」

小説において、状況を把握し、心情表現の理解やその変化を把握できているかを問う。

3 古文読解「全体の**内容把握**」

説話や物語において主旨や要点の把握ができているかを問う。

生徒の実態調査（課題）

▶ 自己評価，自己分析が不十分。

→

「他の教科・科目などの学習の基本，とりわけ言語活動の充実に資する国語の能力，社会人として生活するために必要な国語の能力の**基礎**を確実に身に付け」ているか？

→

「知識・技能の習得」と「思考・判断・表現力等の育成」が必要。

生徒の実態調査（教員の目）

【長所】

- ▶ まじめで素直
- ▶ 文字が丁寧な生徒が多い
- ▶ 指示に従順

【課題】

- ▶ 考える前に「正解」を知りたがる
- ▶ 主体的に学ぶ姿勢が乏しい
- ▶ 基本的な知識が欠けている

目標を達成するために

- ▶ 文学的教材を活用したい。
 - 解釈の自由度が高く、主体的な学びに結びつきやすい？
- ▶ 現代文の学びと古文の学びとを効果的に結びつけることで、「国語科を現代文と古典に分けることからの脱却」（山下直氏）を計りたい。
 - 「言語文化」での学びにも活用できる？
- ▶ 高大連携の取り組みを実践したい。
 - 大学の附属高校であることの強みと意義を確認できる？

研究の流れ（当初計画）

- ▶ 生徒の現状把握と課題の確認 アンケート調査，外部業者資料による分析
- ▶ 教科主任会，「これからの愛教大附属高校を考える会」で研究実践の方向性などを確認・共有
- ▶ 先進校の視察，情報交換
- ▶ 大学および大学図書館との連携
- ▶ 指導，評価の工夫と改善

研究の流れ（コロナ対応）

- ▶ 生徒の現状把握と課題の確認 アンケート調査，外部業者資料による分析（令和2年度は業者の調査不可） → 参考資料一部欠如
- ▶ 教科主任会，「これからの愛教大附属高校を考える会」で研究実践の方向性などを確認・共有
- ▶ ~~先進校の視察~~（令和2年度，3年度ともに不可） → 書籍資料やり取りの研究會参加で代替。
- ▶ ~~大学および大学図書館との連携~~ → Zoomの活用。大学図書館は利用不可。
- ▶ 指導，評価の工夫と改善

育成を目指す資質・能力

- ▶ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約や詳述をしたりすること。（国語総合 C（1） イ）
- ▶ 文章に描かれた人物，情景，心理等を表現に即して読み味わうこと。（国語総合 C（1） ウ）
- ▶ 文や文章の組み立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かにすること。（国語総合 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 （1）イの（イ））

育成を目指す資質・能力

- ▶ 言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げること。（国語総合 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) アの (ア))
 - 古文と漢文だけでなく、古典に関連する近代以降の文章や、伝統芸能、年中行事など、多様な方面からアプローチすることが大切である。（「学習指導要領解説」 p.29）
 - 古文，現代文 × 「富士」？

年間指導計画

1学期

古典入門

(説話の学習, 古典文法の基礎知識)

作品の解釈を通して, 主体的, 対話的な学びの基本を身につける。

文学的な文章を読み深めるための学習指導の工夫①

(例: 芥川龍之介『羅生門』)

(参考: 文章に描かれた人物, 情景, 心情などを表現に即して読み味わうこと)

「古典」を学ぶ意義を理解し, 古典に親しむ態度を身に付ける。古文読解のための基礎知識を習得する。

文章に描かれた人物, 情景, 心情を表現に即して読み味わう。

年間指導計画

2学期

古文を読み深めるための学習指導の工夫

* 読みを深める『伊勢物語』を読む

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと)

高大連携授業 1：『伊勢物語』研究の現状と課題についての講義・質疑 (愛知教育大学 田口尚幸教授)

文学的な文章を読み深めるための学習指導の工夫②

* 読みを深める「富岳百景」

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと)

高大連携授業 2：近代小説の研究方法についての講義・質疑 (愛知教育大学 奥田浩司教授)

(参考：文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図を捉えたりすること)

古文の解釈は一つの作品を精読することだけで成り立つものではないことを学習し，読み比べの視点を獲得する。

小説解釈の方法論を学ぶ。話し合いを通して，自身の意見を相対化する。

年間指導計画 1

1 学期

文学的な文章を読み深めるための学習指導の工夫①

(例：芥川龍之介『羅生門』『今昔物語集』巻二九)

ワークシートを利用して、物語の構成や表現技法に注意しつつ、文章に含まれている情報の正確な読み取りを心掛ける。老婆の論理に対する自分なりの意見を持つ。

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと)

年間指導計画 2

2 学期

古文を読み深めるための学習指導の工夫

『伊勢物語』の読解を通して古文の表現に触れ人物の心情を把握する。和歌の意義を考える。「富士山」や「比叡山」等の風景描写や自然描写について、作品世界のイメージを広げさせることに留意する。

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと，言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化への興味・関心を広げること)

年間指導計画 3

2 学期

文学的な文章を読み深めるための学習指導の工夫②

「富岳百景」の読解を通して文章中の情報について正確な読み取りを心掛けるとともに、それぞれの解釈を確認し、共有する。「富士山」の象徴性について考察する。

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと)

具体的な取り組み 1

「羅生門」と「今昔物語集」巻二九との読み比べ

* 差異を確認し、理由と効果を考える。

→

「文章の内容を叙述に即して的確に読み取」ることには一定の成果が見られた。

→ 「象徴性」の理解や「必要に応じて要約や詳述をしたりすること」には課題が残った。

問（1学期期末考査）

「羅生門」は「今昔物語集」の巻第二九第一八の話をもとに書かれている。あとの文を読んで、「門」の役割や意味の違いについて一〇〇字以内で説明しなさい。なお解答は、「今昔物語集」では...という書き出しで始めること。

生徒A

「今昔物語集」では、門は都へ盗みをするためにやってきた男が人目を避けるために隠れるための場所であるが、「羅生門」では雨に降られた下人が雨風をしのいで一晩過ごすための場所になっている。

このような表面的な読み取りにとどまっている例が半数近くを占めた。文章中の情報は的確に読み取っているかもしれないが、文章中の記述について、抽象化してまとめ直し、説明できる段階に至っていないパターンである。



生徒 B

「今昔物語集」では、門は「男」が摂津の国から京に入って盗みをするために通過するという場所だが、「羅生門」では門が京の都の内と外とを分ける境界の意味になっており、物語に深みを与えている。

よく書けている例（10%程度の生徒が同水準の内容であった）ではあるが、「羅城門」と「羅生門」の違いについて、本質的な部分に触れられていない。残念ながら「生」と「門」の意味を関連付けて、「門」の**象徴性**（例えば、「都を囲む門という意味があったところを羅生門とすることで、生を搦め捕る門という象徴的な意味作用を生んでいます」小森陽一「大人のための国語教科書」角川書店 2009年9月 p.124）について論じた生徒は皆無であった。

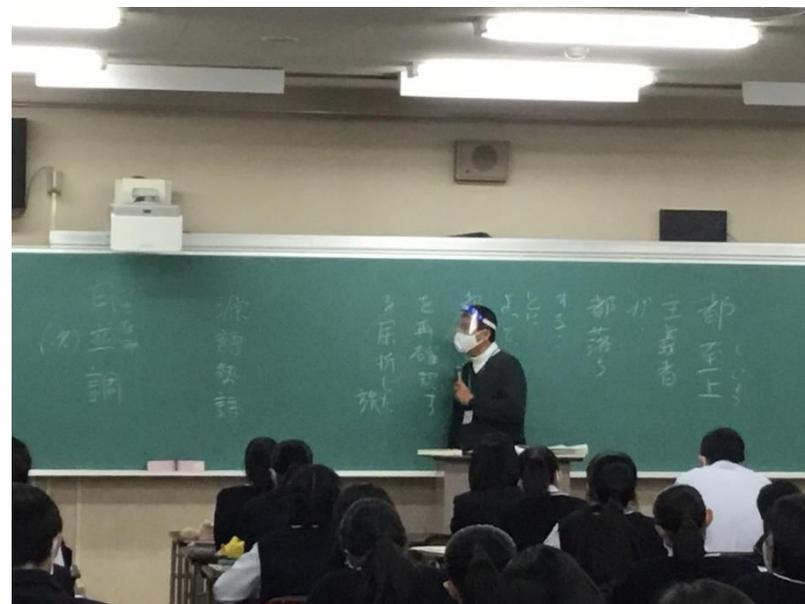
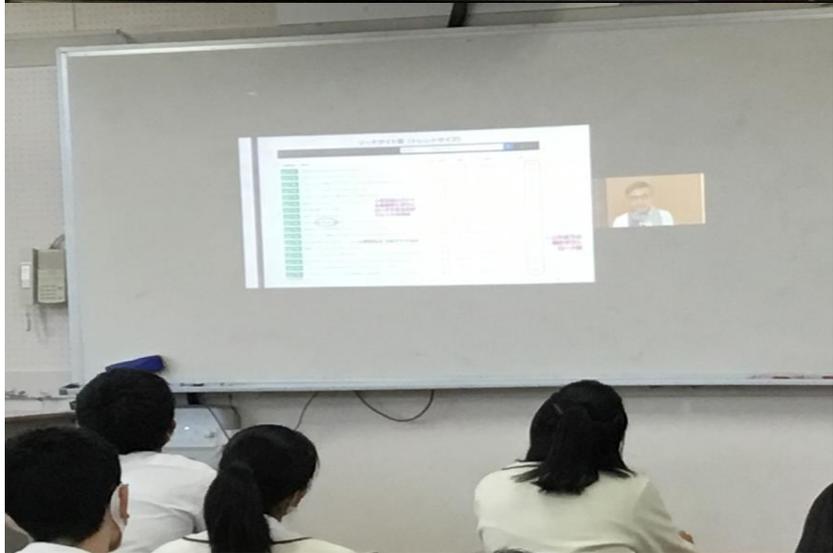
→ 2学期に向けての改善点

具体的な取り組み2 高大連携①

『伊勢物語』研究の現状と課題についての講義・質疑
(愛知教育大学 田口尚幸教授)

→ 「伊勢物語」の読み直しと意見交換 (発表)

(参考：文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと，言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き，伝統的な言語文化への興味・関心を広げること)



* コロナ対応のため、昨年度、限られた人数しか受講できなかった（右上）反省から、今年度は対面とライブ配信のハイブリッドで授業を行った（左上・下）。

古典分野からのアプローチ (実践・研究授業)

- ▶ 教材 『伊勢物語』 「芥川」 「東下り」
- ▶ 展開 ①教材を用いた授業を行う（6時間）
②大学の先生の講義を聴く（2時間）
③意見交換をして考えを深める（1時間）

意見交換の実際

▶ 目的

自然や地理、文学、歴史、心理描写などを関連づけて作品世界のイメージを広げて『伊勢物語』の読みを深め、言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げるため。

意見交換の実際

▶ 準備①

大学の先生の講義後、配信課題を提示

**「もう少し詳しく知る、調べてみる、自分の意見を述べてみる、としたら、
どんな観点で取り組みたいですか」**

- (1) 関連づけて考えたい観点（選択式）
- (2) 具体的に調べたい、考えたい内容
- (3) (1)の具体的な関連づける内容
- (4) (2)と(3)を調べどんな根拠を持ち
- (5) どのような結論、意見を持ったか

意見交換の実際

▶ 準備②

- (1)生徒からの回答を意見交換用シートにまとめ直し
- (2)電子媒体でも閲覧できるように準備
- (3)意見交換会の班編制

①アンケートに入力されたあなたの意見は下記のとおりです。

命題【『伊勢物語』を（自然との関わりの側面）から考える】

『伊勢物語』 富士山に和歌をよむ 都鳥にも言葉もかけている	都が京にあったため、富士山は存在を伝え聞く伝説の山であり、都の人々の好奇心をかきたてるもの 崇められる聖なる富士山であった	伝説であった富士山を前にしてこんな山があるんだと感動したのと同時に、京にいた時のことを思い出し、富士山を京の大切な人にてらしあわせ、寂しい気持ちと元気であるということを伝えたいきもちで和歌をよんだ
(自然との関わりの側面) 富士山は当時の人々にとって、どんなものだったのか		

②本日の授業活動を通して、上の内容に書き加えたいことがあれば、色を変えて書き加えましょう。上に書き切れない場合は下の空欄に書いてください。

意見交換の実際

▶ 授業展開

- ① 班に分かれて読み合い
- ② 質疑応答・意見交換
- ③ ②を踏まえて自己の意見を深める
- ④ 意見発表を聴く

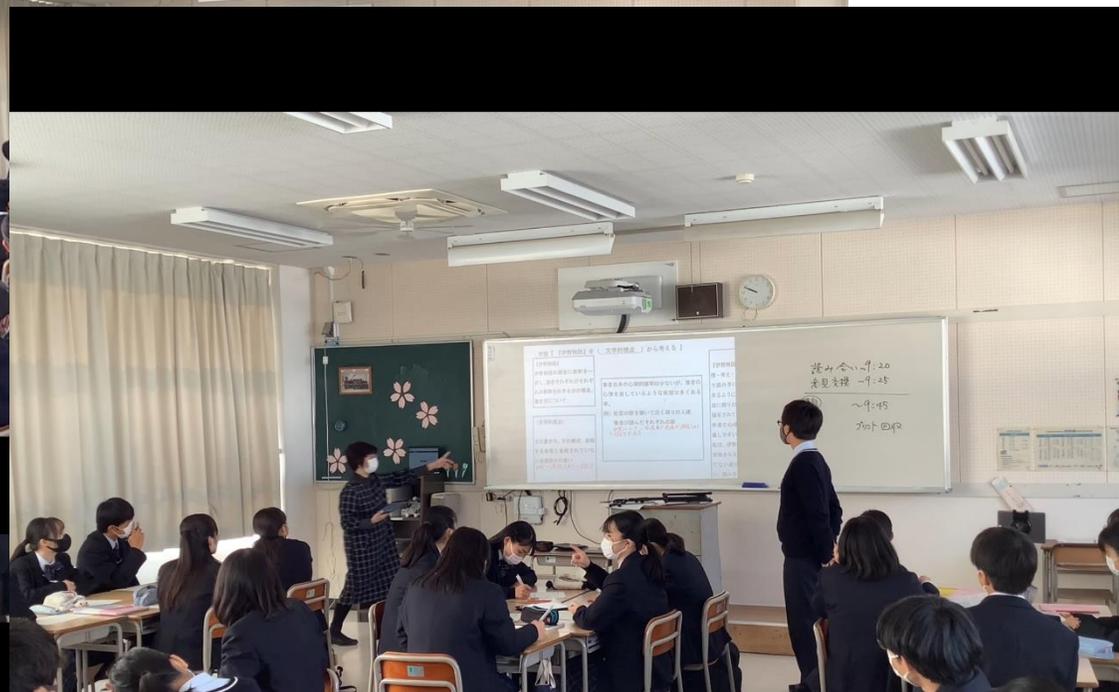
意見交換の実際

▶ 意見交換の様子



意見交換の実際

▶ 発表の様子



現代文分野からのアプローチ (実践・研究授業)

- ▶ 教材 『富岳百景』
- ▶ 展開
 - ①教材を用いた授業を行う（5時間）
 - ②個々の読解をまとめ、意見交換をする（1時間）
 - ③大学の先生の講義・質疑（1時間）
 - ④テキストの再読と、古典分野との関連付け（1時間）
 - ⑤意見交換をして考えを深める（1時間）

具体的な取り組み3 高大連携②

近代小説の研究方法についての講義・質疑
(愛知教育大学 奥田浩司教授)

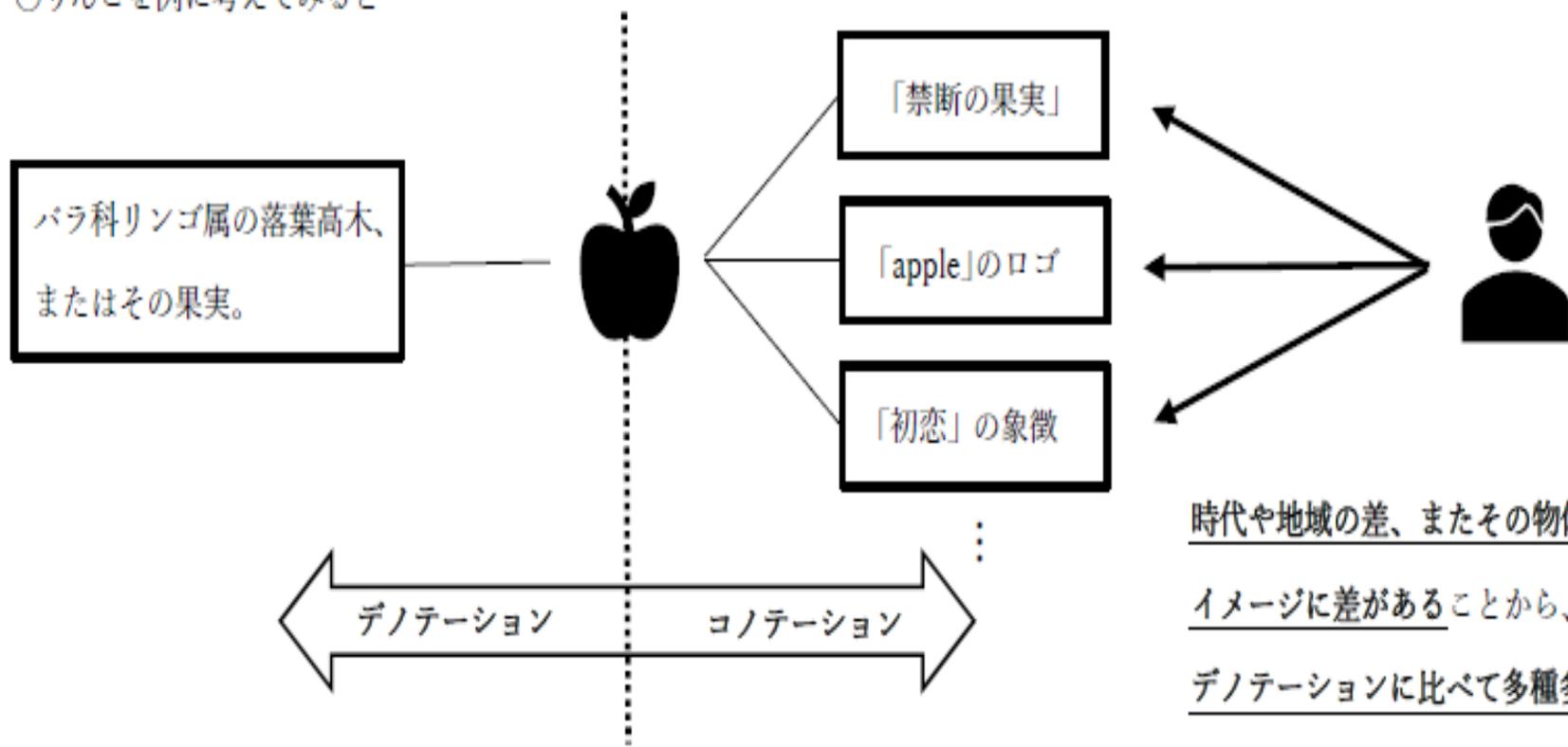
→ 「富嶽百景」の読み直しと意見交換 (発表)

(参考：文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりすること)

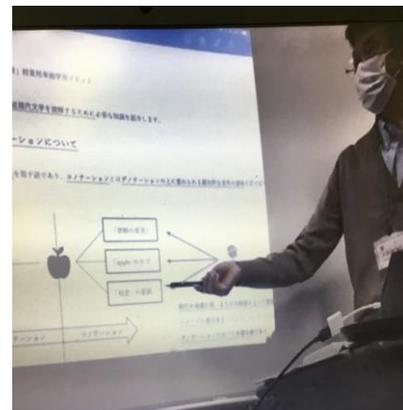
(1) デノテーション/コノテーションについて

デノテーションとは文字通りの意味を指す語であり、コノテーションとはデノテーションの上に重ねられる副次的な言外の意味を指す語です。

○りんごを例に考えてみると…



時代や地域の差、またその物体によって想起するイメージに差があることから、コノテーションはデノテーションに比べて多種多様であり、圧倒的に豊かだといえる。



研究授業 現代文分野

- ▶ コノテーションの理解を活用し，作品を再読する。
- ▶ 「富士」がコノテーションであることを理解した上で，自らにとっての「富士」的なものについての考えを深める。

(★文章の意味や表現は，作品の文脈の中で形成されることを理解している 知・技,作品や文章に表れているものの味方，感じ方,考え方を捉え,内容を解釈している。 思・判・表)

研究授業① 現代文分野からのアプローチ

課題 1

- ▶ 「富士には月見草がよく似合う」について、「富士」追加されたコノテーションを確認しましょう。

課題 2

- ▶ 「二人の姿をレンズから追放して、ただ富士山だけをレンズいっぱいにかッチして」写真を撮った理由を考えましょう。
二人 = 罌粟の花 「ただ富士山だけ」

課題 3

- ▶ 「酸漿に似ていた」という表現から読み取れることを確認しましょう。
* 「酸漿」...ナス科の多年草。高さ60~90センチ。地下茎を伸ばして増える。葉は卵形で縁に粗いぎざぎざがある。...略...《季 秋 花 = 夏》 「大辞泉」

現代文分野からのアプローチ (実践・研究授業)

▶ 意見交換の様子



成果と課題 〈古典分野〉 (教員の評価, ペーパーテスト)

▶ ペーパーテストでの結果

- ①和歌の心情、登場人物の心情を問う問題の正答率
- ②『伊勢物語』の文学史的知識を問う問題
(記述式) の正答率
→ いずれも9割を超える

成果と課題 〈古典分野〉 (生徒の振り返りより)

日本はいい茶と書文もヤムがヤムにいいです。

現代の道づくりにあって、人生言葉と幼稚な中にしていいこと知はよく思はす。

「やばい」が、
「よくい」下りが、日本語をしかりとつかう人は減ってきた、だからこそ

現代のように下はさ
い茶の人は苦の人が思いつかすよう
なハハのしがてまた

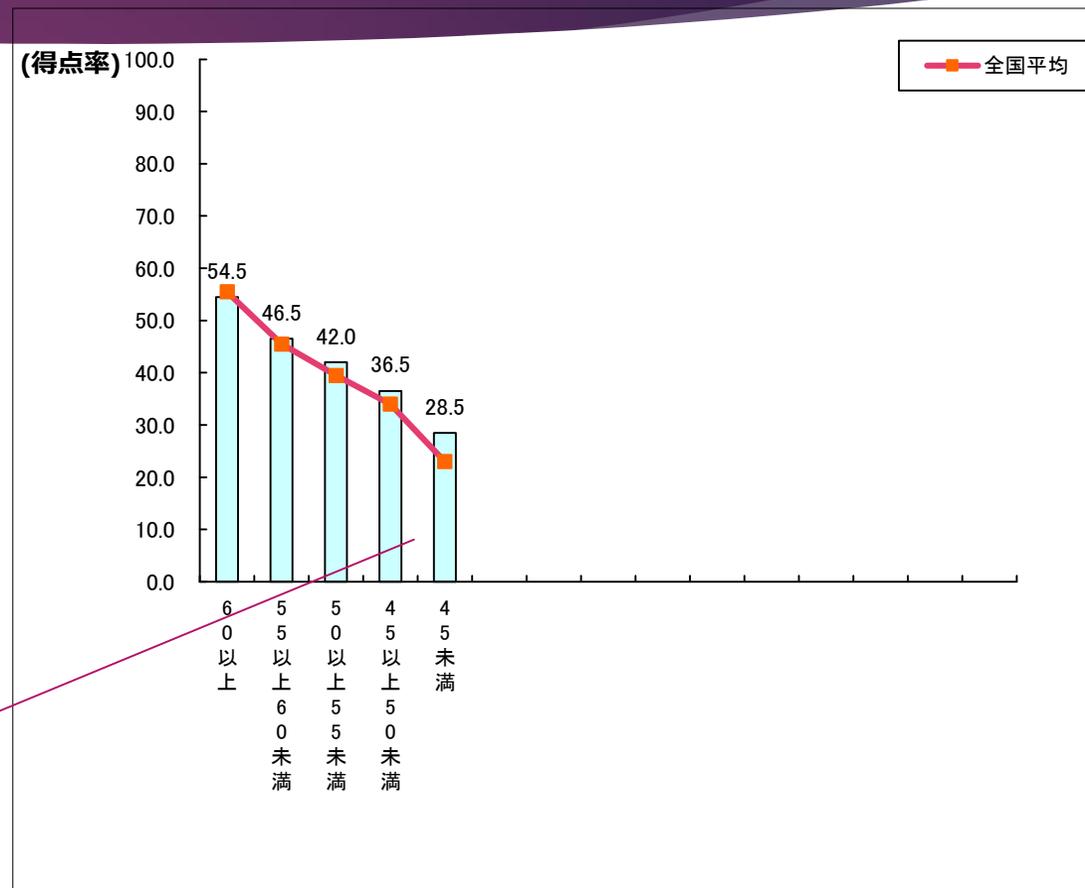
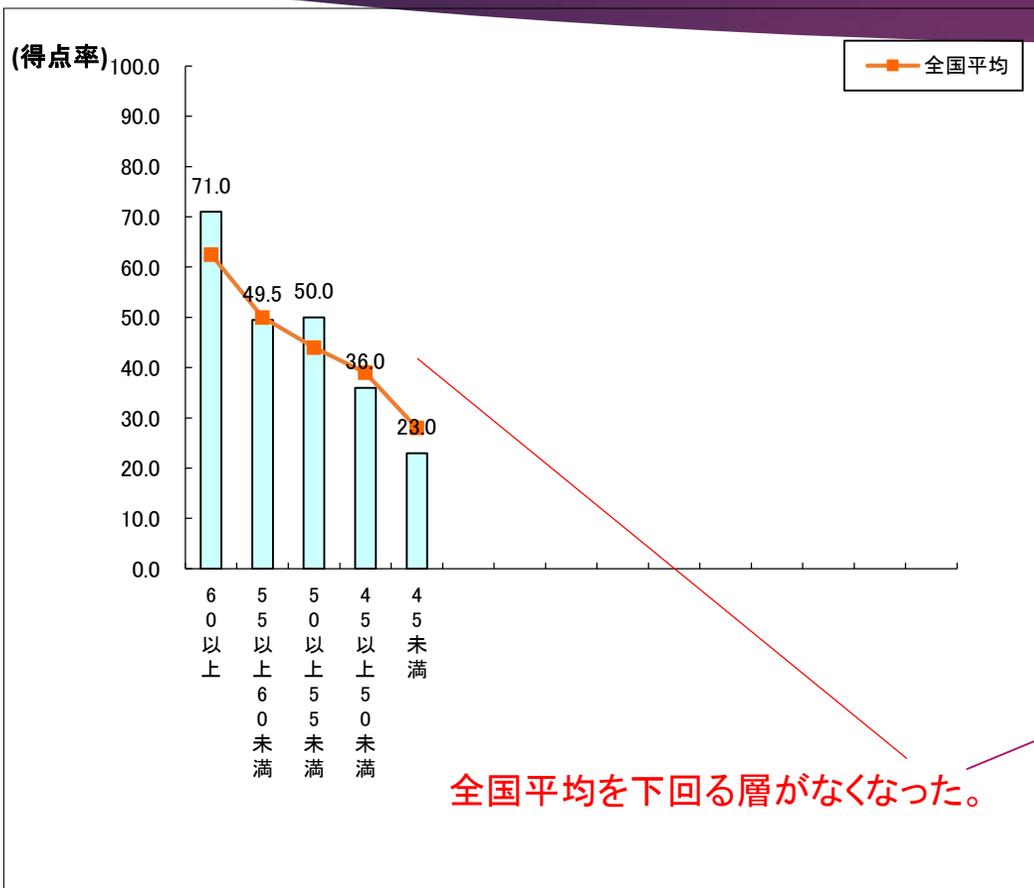
はすいかなと私は伊勢物語もつて感じ、苦の歌人を尊敬しています。

(3) での他、ご意見、感想は何かのめいほこうで。

伊勢物語という一つの文学で、みんな気になる所が少しずつ
違っているのが面白い。

思いついた。

成果と課題 〈現代文分野〉 (教員の評価, ペーパーテスト)



B社記述模試 (小説) 7月と11月の結果

成果と課題（教員の評価、ペーパーテスト）

▶ ペーパーテストでの結果

「富士山」の解釈をめぐる古文と現代文の比較に関する設問の正答率（国語を「的確に理解する能力」）

→ 67% （査査平均点67点） 効果なし？

成果と課題 (生徒アンケートより)

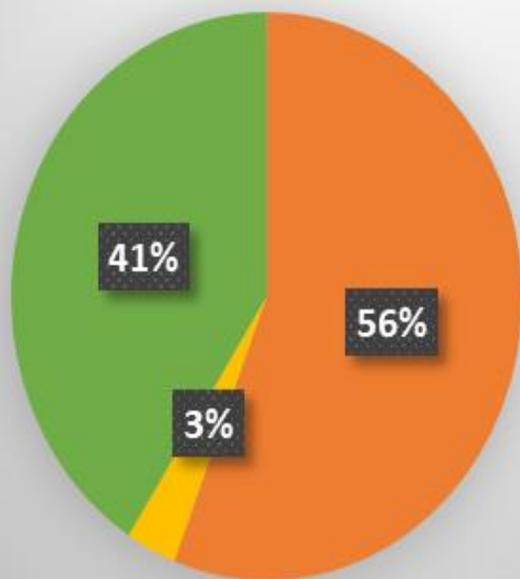
- ・僕は今まで作者が伝えたい思いや願いだけを読み取っていたけど、自分で考えを広げることによって新たな思考やわくわくが生まれてくるのに気づき、とてもいいことだなと思いました

- ・講義の中で話されていた、「作者さえも想像していなかった解釈を提示するのが、読み手の創造性」という言葉聞いて、作者の表したかったものが正解だと思っていた私とは違う考え方で、新鮮でした。

- ・作品の中に出てくる「純粹さ」について、純粹さにも種類があり、富嶽百景と大和魂とでは異なる純粹さであったこと。デノテーション、コノテーションという言葉は知らなかったが、知らず知らず考えていたものだったこと。

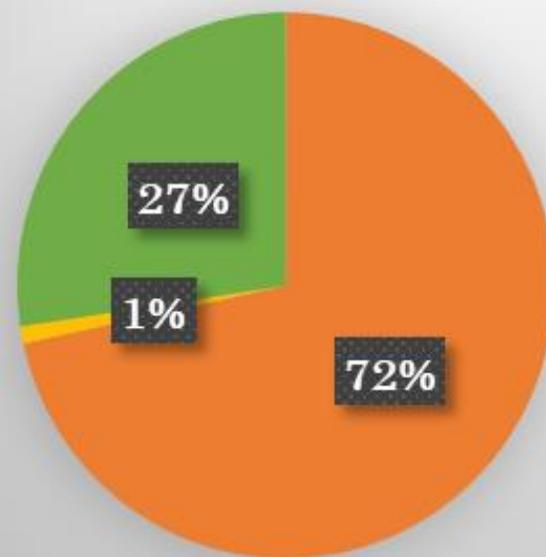
成果と課題 (生徒アンケートより)

「文学作品」の理解について



- 1 読み方が変わった・深まった
- 2 読み方は変わらない・深まらない
- 3 どちらとも言えない

「富嶽百景」の理解について

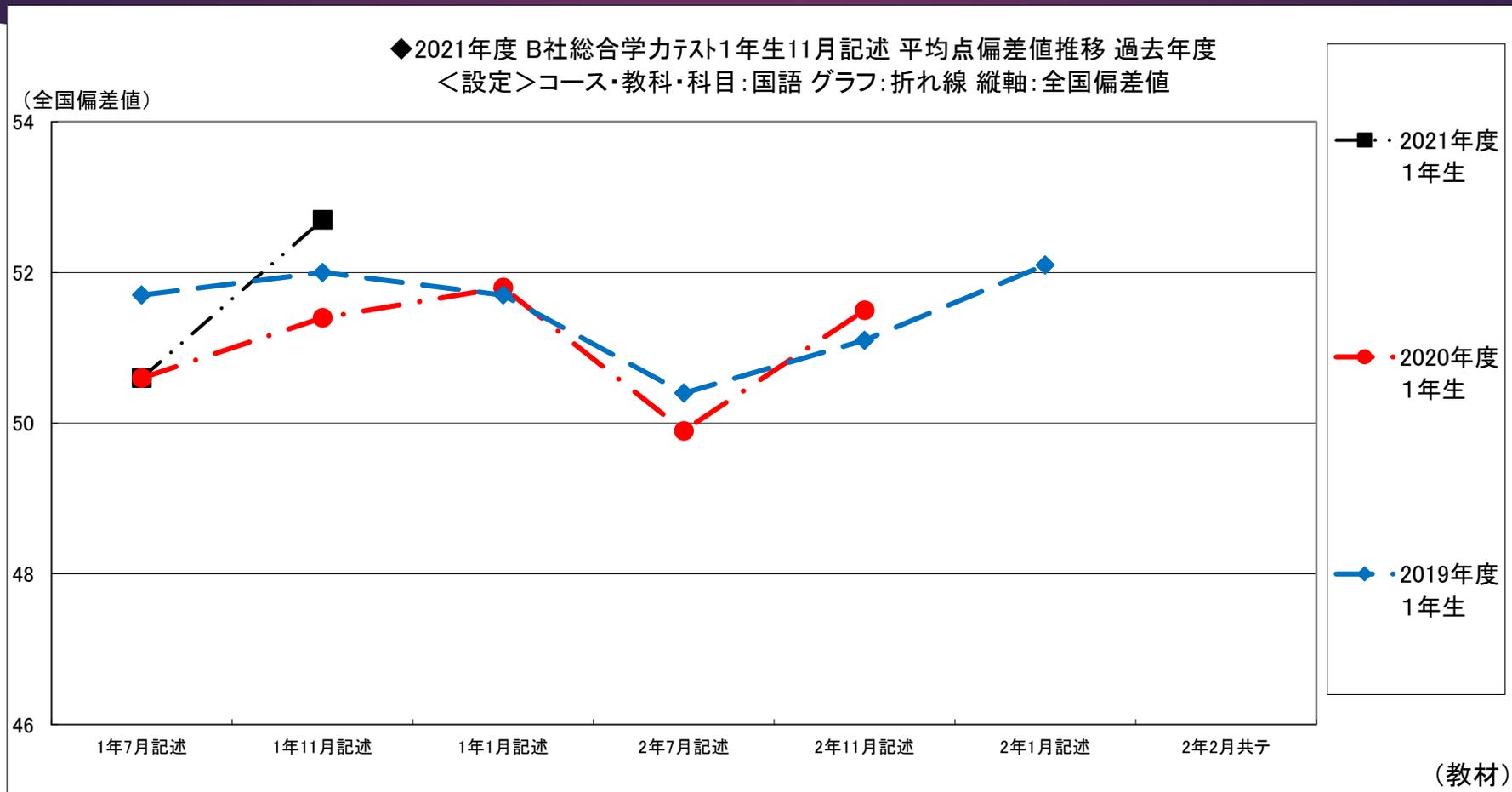


- 1 読み方が変わった・深まった
- 2 読み方は変わらない・深まらない
- 3 どちらとも言えない

成果と課題

- ▶ 多くの生徒が文学作品を主体的に読み解くことで作品の世界が広がることや、多様な読みがあり得ることを経験的に学んだ様子が伺えた。
（「関心」は高まった。学力の向上が見られた。）
- ▶ 奥田先生からは「コノテーション」という概念を用いて「富士」をめぐる言説を整理する示唆を頂いたが、参観の先生から専門用語が先行して逆に読みの幅を狭めてしまう恐れもあるのではないかとのご指摘を賜った。
- ▶ 個々の作品の理解を深めたことが必ずしも文学作品全般の読みの深まったとは生徒に実感されておらず、改善の余地がある。

成果と課題 〈国語全体〉 (教員の評価, ペーパーテスト)



まとめ・今後の見通し

- ▶ 生徒が文学的な文章を主体的に読解し，自身の解釈について根拠をもって説明することができるようになる。 △「説明」の成果は不明。
- ▶ 文学的な文章を読み深めることを通して，解釈の多様性を認める態度を涵養する。 ○（アンケート・ワークシートの記述）
- ▶ 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることで，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ○（アンケート・ワークシートの記述）
- ▶ 近代以降の文章と古典（とりわけ古文）を関連させた文学的な文章の授業実践を蓄積し，学習効果を検証する。 △今後の課題。